

Plan Do See

『東日本小紀行』

朝日中学校 校長 村田博史

東日本大震災の被災地を実際に目にしたいという気持ちを押さえきれず、今年の夏、東北地方を駆け足だったが訪ねてみた。常磐道で福島県に入り、やがて安達太良山と猪苗代湖に目をやっていると、緑色から黄金色へと変わりつつある稲の絨毯が目にとまった。阿武隈山地の向こう側には原発事故に遭遇し、放射能による被爆という目に見えない恐怖に怯えながら避難生活を余儀なくされている人々、そして放射能汚染が生活そのものの不安となり、怯えている人々が大勢いるのだ。原発再稼働と放射線教育の問題はどう扱っていくべきなのだろうか。考えるほど、難しい壁にぶち当たる。



次に、石巻市を訪れた。ここでは、約4千人の尊い命が失われたという。海岸線近くからの荒れた原っぱと無残にも変わり果てた建物。想像を超える被害の広さと大きさに驚いた。マスコミから流れる津波の映像は悲惨そのものだが、1年以上も経っているにもかかわらず、実際被害を目にしてみるとその光景は言葉にならない。舗装していない道路を白ナンバーの大型トラックががれき処理のために頻繁に通行していた。死者千人以上、被害家屋一万戸以上という。このような甚大な被害にあった人々の気持ちは想像もできない。その日、宿に帰っても自身の気持ちの収まりがつかなかった。

翌日訪ねた陸前高田の海岸。以前は白い砂浜に樹齢三百年を超える約7万本の松で有名な景勝地。今は、影も形もなく変わり果てて1本の松だけが残されていた。近くに仮設住宅があり、小高い台地には、民家が何もなかったように存在する風景は奇妙であった。さらに、三陸道を北に走って釜石に到着。港を望む通りは戦争で無残に荒れ果てた街のようであった。あちらこちらに存在する仮設商店街は営業こそしているが、客数が昼食時といえど人影はまばらで、本当に復興できるのだろうかと思ってしまう。そして大槌町に入る。人口約1万6千人のうち、1割近くが死亡もしくは行方不明で、6割の家屋が被災するという壊滅的な被害を受けた町である。建物の基礎部分だけを残し、夏草だけがのびた荒れ地が目立った。あっけにとられているうちに山田町に着く。地震、津波、火災によるトリプルパンチ。広範囲に散らばったがれきの山があちこちに見受けられた。これらのがれき処理はどう解決すべきなのか。そう考えながら、夕方には岩手山に見える八幡平にある宿に辿り着いた。ここには壮絶な光景と真逆の自然の風景があった。



「ふるさとの山にむかひて 言うことなし ふるさとの山はありがたきかな」

啄木になりきって詠んでしまいそうだ。しかし、すぐに興ざめして、日本人として一人の人間として、自分はどう行動していかなければならないか。難解な人生哲学を投げつけられたような気がした。

朝日町の頑張る先生を紹介します！！

「挨拶で感動」

朝日中学校 教諭 田又 繁幸

他の学校の先生方や地域の方から「朝日中学校の生徒さんは挨拶が素晴らしいですね」という言葉をよくいただく。この言葉を聞くと私自身、すごくうれしい気持ちになるし、このままこのような習慣が朝日中学校で続いていってくれたらと願っている。

先日、リレーメンバー6名の選手を引率して千葉県で行われた陸上競技の全国大会に行ってきた。大会初日、本校の選手のウォーミングアップや最終調整を終え、競技場に入ろうとしたときのことであった。同じ組で走る他県のとある中学校の生徒が、競技場を目の前にして「お願いします」と元気よく挨拶をして会場に入って行ったのを見た。その挨拶は元気よい素晴らしい挨拶であると同時に、凛とした顔つきで心の底から気持ちをこめて「お願いします」と言っていた。そんな挨拶に私は、感動すら覚え、同時に、あいさつだけでこんなにも人は感動できるものだとこの時、その中学生を見て初めて思った。

普段の学校生活では朝であれば「おはようございます」、授業の初めに「お願いします」と当たり前のように、この言葉を生徒たち含め私自身口にしてしている。挨拶で心を込めるのは難しいしなかなかできない。しかしながら、あいさつは人と人を結びつけるものであり、相手をいたわり、思いやるもので、だからこそ、そこに「心」が必要だと思う。そして、その「心」が育っているからこそ、全国という大きな舞台でも物怖じせず戦えるのだと思う。

「井の中の蛙」とはこのことで、まだまだ全国には素晴らしい中学生がたくさんいるのだと知り、自分自身、部活動指導を含め挨拶や人間の育成にもっと精を出し、頑張らなくていけないと強く感じた。



「わたしの教育雑感」

あさひ野小学校 教諭 長等 潤子

わたしは、今年度、教員生活最後の年を過ごしています。22歳から59歳の今日まで、すごく長かったようでもありあっという間のようでもありました。この間、担任した子どもたちや同僚の職員の皆さん、はたまた家族に助けをもらいながら無事過ごすことができました。自他共に大きな事故も怪我も病気もなく過ごせたのは、皆さんのおかげとしか言いようがなく、感謝の思いでいっぱいです。

38年近くも勤めていると世の中は相当変わってきます。一番変わったのはパソコンの導入でしょうか。今ではだれもが当たり前のようにパソコンを使っていますが、30年前は進歩的な人が使う先進的な機械でした。3行しか表示されないワープロで、指導案を書いておられた方もあったなあと思い出します。それ以前はガリ版刷りだったのですから大変な進歩です。インターネットで世界中の情報が手に入るようになったのもすごいことです。子どもの数も減り、たくさんの学校が閉校になりました。

変わらない物もあります。まず黒板。これは教育の道具の基本中の基本ですね。次に子どもたちの笑顔。子どもたちは、いつの時代も伸びよう伸びようとしています。分かった、できた喜びは、子どもたちのすてきな笑顔になって現れます。そういう笑顔に触れるとき、教師冥利に尽きます。そして先生方の熱意。幾つもの職場でいろいろな先生方と一緒に仕事をしました。どの職場でも熱意あられる先生たちに出会えました。疲れてめげてしまうこともありましたが、仲間を支えられて過ごしてこられたことが何よりです。これから教育界はさらに変わっていくかもしれません。でも、先生方の熱意を信じています。「お互いに助け合い、子どもたちの幸福のためにがんばっていきましょう。」とエールを送り、わたしの教育雑感とします。



今年度の研究から

「仲間とともに学び合う」 さみさと小学校 研究主任 四杉 貴美

今年度は、さみさと小学校と五箇庄小学校が統合した初年度であることから、まずは子ども同士が交流を深め互いのよさを認め合える温かい学級をつくることを優先課題とし、研修の第1歩がスタートしました。研究主題は、両校がそれぞれに「とやま型学力向上プログラム実践拠点校」として取り組んできた中で大切にしてきた



「学び合い」と「体験」の二つのキーワードを踏まえ、子ども同士の学び合いが深まり豊かな表現力につながる

ように「仲間とともに学び合いながら、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成」と設定しました。そして、「基礎的・基本的な能力及び体験を生かした単元構想の工夫」、「子ども同士のかかわりを生み出す学習過程と学習形態の工夫」「一人一人のよさや変容をとらえる評価の工夫」の3つを柱とした授業づくりに取り組んでいます。授業研究が特定の教科に偏ることがないように、「生活・総合」と「教科・特活」の2つの部会を設けそれぞれの教科の特色を生かした授業づくりを進めているところです。

また、授業研究のあり方についても改善を図ろうと、事後研修会で「フリーカード法」を用いた授業リフレクションを取り入れてみました。授業を「成果と思われること」「課題だと思われること」の2つ観点で観察し、色分けしたカードに書き込み、それを課題ごとに整理していきます。協議するポイントが焦点化され視覚的にも分かりやすいため、協議を深めるには効果的です。また、教員の数が多く、限られた時間の中で全員が発言するという事はなかなかできにくいのですが、このフリーカードの活用によって、一人一人の多様な意見がしっかりと位置づけられ、積極的な協議にもつながっています。

1学期は、それぞれの学級で学びの基盤となる温かい学級づくりに重点をおいて取り組んできました。2学期に入り、いよいよ授業研究も本格的となります。4月から新しい仲間とともに学び始めた子どもたちは、自分らしさを発揮しようと様々な活動に取り組んでいます。そんな子どもたち一人一人を見つめ、その姿から常に授業を振り返り、実践を重ねて行きたいと思えます。そして子どもたち同様に、私たち教員も仲間とともに学び合う姿を目指していきたいと考えています。

朝日町研究主任会から

今年度、3校ともフリーカードを用いた授業研修が行われています。全国でも、多くの学校がこのスタイルの授業研究を実施しているそうです。「フリーカード法」とは、川喜田二郎氏の「KJ法」をヒントに、大阪大学名誉教授の水越敏行氏の研究室で開発された手法だと言われています。授業の観察者は、授業を見ながら気付いたことを思いつくままにカードに記入していき、その後、内容が類似のカードを集めてグループ化し、構造化を図って、授業の特徴を明らかにしたり、問題点を焦点化したりする方法です。時系列にするか、分類するか、構造化するかによって効果も大きく違うようです。あくまで、「授業リフレクション（省察）」のための一つの手法であり、自校に合ったスタイルを各校で模索しておられるようです。朝日中学校の支援訪問では、各部会の司会を一番若い先生が務めておられ、温かい雰囲気の中で活発に議論されていました。そういったひと工夫が、校内研修を活性化するようです。



教師の夏 学びの夏 積極的な参加ありがとうございました

授業力アップ研修会 ② 【理科実験】

参加者26名

7月30日(月)午前 小学校悉皆・希望者

- 「化学実験における基本操作」
- 「顕微鏡で見る世界」

講師 総合教育センター科学情報部職員

「すごく久しぶりに実験、観察を体験しました。とても興味深く、わくわくしながら、子どもたちもきっとこのわくわくドキドキを感じるのだと思います。今後の授業(担当したら)に生かしたいと思います。」
【小学校女性】



授業力アップ研修会 ③ 【学級活動】

参加者19名

7月30日(月)午後 希望研修・6年次まで悉皆

- 構成的グループエンカウンター
- アサーショントレーニング

講師：朝日中学校カウンセリング専門員
梅澤健一 先生

- プロジェクト・アドベンチャー

講師：さみさと小学校 兵庫秀典 先生
さみさと小学校 舟本麻衣 先生

大好評！笑顔あふれる研修でした。

「生徒は、こうやって人間関係を築くんだ。こうやって感動するんだと実感できました。学級運営等で、ぜひ取り入れていきたい。」【中学校男性】



学校教育運営研修会

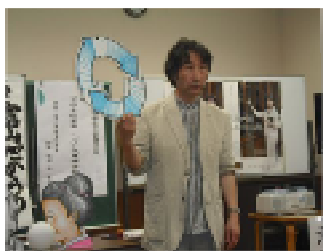
今回は、連続して郷土の歴史がテーマでした

●第1回 8月9日(木) 43名
富山県教育記念館 館長 伏黒 昇 先生

『とやまの至宝：ヘルン文庫誕生物語』

泊出身の馬場はるさんとヘルン文庫のつながり、そしてハーンが好きだった日本の国のよさを再確認しました。

「今まで聞いた講演のなかで、最も興味深かった。」【小学校女性】という賛辞も。稲村の火の紙芝居ありますよ。



●第2回 8月17日(金) 41名
元KNBディレクター
細川嘉六ふるさと研究会代表 金澤敏子 先生

『「泊・横浜事件」を取材して』

戦前最後にして、最大と言われる言論弾圧事件に発展した「泊・横浜事件」。実は、町民の方々にもあまり知られていないそうです。70年の節目の年に端緒の地で、郷土の深淵な歴史を聴くことができました。



まだまだありました 夏の研修

学力向上プログラム研修会 29名

情報教育研修会・学力向上推進研修会49名

8月3日(金) 午後 小学校悉皆・中学国語科教員

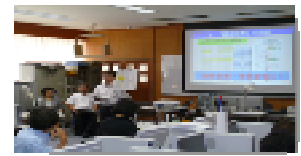
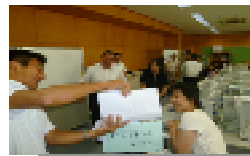
説明文の読解力を育てる国語

講師：筑波大学附属小学校 青山由紀 先生
 説明文教材の系統性を明確に示されながら、子どもを思考させる魔法のような発問と指示を、どんどん繰り出されるのです。テンポのよさと鋭い解釈で参加者を惹きつけての、あっという間の150分でした。



8月7日(火) 午前・午後 悉皆研修

朝日町の先生が全員参加の研修日。恒例の情報教育研修会に、学力向上推進研修会を重ねて実施しました。情報教育研修会には、おなじみの総合教育センター科学情報部の上野敏浩研究主事。学力向上推進研修会には、学力向上推進チームの河田新子主任研究主事、石川弘明主任研究主事を講師としてお願いしました。充実した研修でしたね。



現地学習会

13名

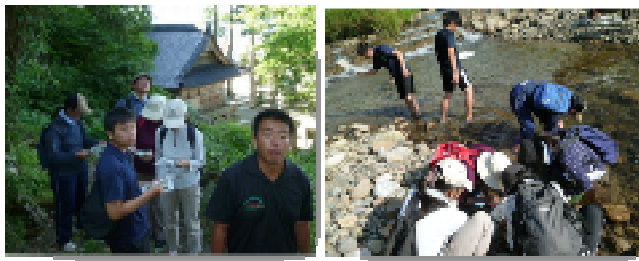
小中高教育講演会

68名

8月8日(水) 午後 希望研修・6年次まで悉皆

例年、社会科的な現地学習会を実施していますが今回、久しぶりに理科的な自然観察を中心とした学習会でした。「川で水生生物を観察するのは初めてで、とても楽しかったです。」【小学校男性】

- 鹿嶋樹叢の動植物の観察
- 笹川の水生物の観察



8月10日(金) 午後 悉皆研修

富山大学水素同位体科学研究センター
 准教授 鳥養 祐二 先生

放射線の一般知識と人体への影響

朝日町に勤務する小学校、中学校、高等学校の先生を対象とした、朝日町の特色あるおなじみの講演会です。「放射線」がテーマということで、関心も高かったようです。放射線を実際に測定し身近にあるものだと実感しました。



魚津地区センター協業事業 それぞれ個性的で、魅力ある講師でした

★生徒指導講演会★ 7月27日
 IN 新川文化ホール 179名

ベンチャーグノム代表取締役
 教育クレームコンサルタント
 大西 正泰 先生
 誰がための学校か？
 —学校クレームから考える—

「クレーム対応について、とてもわかりやすいお話でした。書籍で読んでみたい。」



★講師に学ぶ講演会★ 8月2日
 IN 宇奈月小学校 146名

(株) コーチング・システムズ
 稲垣友仁 先生
 自分で考え 行動する力を
 育むコーチング

「コーチングは、まさに教師に必要な方法、姿勢だと感じました。」



★道徳の授業に関する講演会★
 ※朝日町教センター主管 8月24日
 IN 入善まちなか交流施設うらおい館177名

道徳のチカラ代表 山形市立宮浦小学校
 佐藤幸司 先生
 道徳授業は自分でつくる
 —教師のチカラをつけよう—

「私が今まで信じていた道徳授業を考え直すとてもよききっかけとなりました。」



センターの本棚

→この後も新刊ふえました！詳しくは、センターのwebサイト(ホームページ)をご覧ください。

岩瀬直樹（イワセン）先生の本 埼玉県狭堀兼小学校教諭



●岩瀬直樹。1970年生。信頼と子どもの主体性をベースにしたクラスづくりの研究・実践、ワークショップを核とした授業づくりに取り組む注目の教師。



← この本は氏と6年生の子どもたちで書いた本です。以前、教室に置いておいたら、この本を「人生で最高の1冊」に挙げた子がいました。子どもがあこがれる教室の実話です。
→教師としては、こっちが◎でした。ベテランの先生にも、この本は刺激的！「先生がいなくても僕たち大丈夫だよ」という学級づくりの秘密が。



●ホワイトボード・ミーティングを提唱するファシリテーターの「ちよんせいこ」との共著。新しい学級づくりの手法、ファシリテーションがよくわかります。次世代の板書技術→「ホワイトボード・ミーティング」は、若い先生、そろそろいかがですか？



学び合いといえば…西川 純先生 上越教育大学教職大学院教授



●「学びの共同体」の提唱者が、佐藤学先生（学習院大学教授）であるなら「学び合い」の提唱者といえば、西川純先生でしょう。

西川先生のいわれる「学び合い」はとても簡単で、あっという間に全国に広がっています。7月に最新刊『学び合いステップアップ』が発刊されました。久しぶりの新刊で、これまでの「学び合い」の疑問に答えるI冊！



あの「気になる本」が入りました！

●「パフォーマンス評価」という言葉をよく聞くのですが、何なのでしょう？従来のテストでは見えにくい「思考力」「表現力」などを具体的な表れとして見ることが出来る有効な評価方法の一つだそうです。



●その名前も風貌もネーミングも気になる注目の先生。教職11年目の若手教師「金大竜（きむてりょん）」先生の話の本が入りました。超個人的な実践との評判でしたが、いいえ、たいへんな研究と努力をしている実力ある先生です。学級づくりが、驚くほど巧み。整理、掃除の指導は圧巻。



赤坂真二 先生の本 上越教育大学大学院准教授

「気になる子」のいる
クラスがまとまる
方法!



不思議と
問題行動が消える!

学級づくり
成功の極意



教室に安心感をつくる
勇気づけの学級づくり

●富山県にも何度も来ている人気講師の赤坂先生。お笑い教師同盟らしく「おもしろい講演」です。しかし、その温かさと学級づくりの技術は本物です。子どもたちが先生を大好きになるのもわかります。言葉と心構え一つで、こんなにも学級が変わるか実感できる本です。



授業に使えるDVDが入りました ポータブルDVDプレイヤーも入りました。貸し出します。



NHK DVDボックス 1巻あたり43分×5本
「その時歴史が動いた」5枚組×全6巻

- 戦国編
- 乱世の英雄編
- 義士武勇伝
- 戦国のリーダーたち編
- 幕末編
- 日中・太平洋戦争



※各巻の詳細は、朝日町教育センターホームページをご覧ください。

- ①赤坂真二 『勇気づけの学級づくり～つながる道筋～』（上越教育大学大学院）
- ②土作 彰 『ミニネタを活用した模擬授業&土作学級づくり』（奈良県広陵西小）
- ③石川 晋 『学級担任が行う合唱指導「旅立ちの日に」&オムニバス型国語授業』（北海道上土幌中学校/メールマガジン「学びのしかけプロジェクト」編集長）
- ④石川晋、堀裕嗣、門島伸佳（門島氏は、富山県西部の中学校の先生）
『文学の授業～読む・解く・書く～』
- ⑤菊池省三 『対話活動を大切にしたい授業づくり』（北九州市貴船小学校）
- ⑥ファシリテーショングラフィック入門 藤原友和（函館市昭和小学校）20代教員
- ⑦ファシリテーション入門 岡山洋一（SDI 札幌ディベート研究所）

明日の教室

話題の教師や新しい教育方法を取り上げた「明日の教室」のDVDを購入しました。

★★「明日の教室」DVDシリーズ★★



◎NHK「プロフェッショナル」に登場した菊池省三氏のDVDもあります。『対話授業を大切にしたい学級づくり』の内容は、
第1部 学級に対話力を育てる取り組み(53分)
第2部 対話を大切にしたい国語科授業(70分)
第3部 対話を生かした算数科授業(38分)
第4部 対談(18分)



朝日町学力向上推進委員会がスタートしています！

今年度の第1回朝日町教育センター運営委員会において、「全国学力・学習状況調査の機会を生かし、専門的な視点から具体的な授業改善を提言する会があったほうがよい」との多数のご意見をいただきました。そこで、朝日中学校の林 真也教頭先生を委員長に、朝日町学力向上推進委員会が結成され、7月より活動を開始しています。今後、朝日町の子どもの学力向上、教師力向上にご尽力いただくこととなります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

国語科		算数・数学科		理 科	
あさひ野小学校	土井 美雪	あさひ野小学校	目澤 恵子	あさひ野小学校	林 清唯
さみさと小学校	伊藤 美静	さみさと小学校	横山亜希子	さみさと小学校	石浦 嘉寛
朝 日中学校	田中久美子	朝 日中学校	山田 智徳	朝 日中学校	森田 隆司

◆◆授業にご利用ください◆◆

むかしの教科書・新聞あります

- 大正、昭和期の教科書（復刻版）が、町民の方から寄付されました。復刻版ですので、実際に手に取って見ることができます。国語、修身の教科書が合計で36冊あります。ご利用ください。



- 太平洋戦争時（1941年～1943年）の読売新聞の復刻版。合計50日分の臨場感あふれる新聞です。こちらにも手に取ってご覧いただけます。



編集後記

先日、学芸員がセンター資料室で、大声を上げました。「（予想していなかった）いい資料が見つかった」そうです。セレンディピティとは、「何かを探しているときに、探しているものとは別の価値あるものを見つける能力・才能」だそうです。夏の「道徳の授業に関する講演会」で、講

釜石市から「防災教育」に使える資料

- 友好都市交流事業で、釜石市教育委員会が作成された「防災教育の手引き」等資料をいただきました。各学校に、防災教育資料として配付いたしました。
- その他に、防災教育についての書籍が6冊、釜石の中学生が体験を報告している動画（DVD）もあります。ご連絡いただければ、学校までお届けします。



教室に本物の民具を

- 前回お知らせした「貸し出し民具」も、社会科、生活科等に、いつでもご利用ください。



師に質問がありました。「どうやって、こんな素材を見つけるのですか?」「うーん、よく聞かれるのですが、何かないかと思って見ているくらいですかね」さて、こちらは、紛失物探しをしている日々。探していると、それ以前に無くした物を見つけて、喜びと呆れと思い出に包まれます。これからも、探し続けることなら、できそうです。

発行：朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053番地1

TEL/FAX 0765-83-0279

E-Mail asahi-ec@tym.ed.jp

ウェブサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>

●●朝日町教育センター職員●●

所 長 永井孝之
(朝日町教育長)

所長代理 澤木 昇
(さみさと小学校校長)

所 員 内山 真之
助 手 大菅 栄子